

環境影響評価のあらまし

3 環境影響評価項目の選定

本事業計画の事業内容から環境への影響要因を表3-1のとおり抽出しました。これと事前調査の結果を勘案し、環境影響要因と環境要素の関連について影響の有無を検討しました。その結果、本事業により影響を受けると考えられる現況調査、予測・評価を行う項目を表3-2のとおり20項目選定しました。また、現地調査位置図を図3-1に示します。

なお、本あらましでは、これら20項目のうち、主要項目の大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、低周波音、悪臭、廃棄物、陸生植物、陸生動物、水生生物、景観、文化財及び地球温暖化の14項目についてその概要を記載します。また、事後調査計画の内容と土壌対策について、その概要を記載します。

表3-2 環境影響要因と環境要素の関連

環境影響要因	環境要素						
	工事関係車両の走行	施工機械の稼働	土地の造成・施設等の建設	建築物等の存在	廃棄物運搬車両の走行	施設の稼働	土地利用の変化
大気汚染	○	○			○	○	○
水質汚濁			○			○	
底質			○			○	
土壌汚染						○	
騒音	○	○			○	○	
振動	○	○			○	○	
低周波音						○	
地盤沈下				○		○	
悪臭					○	○	
廃棄物			○			○	
地形・地質			○				
陸生植物			○				○
陸生動物			○				○
水生生物			○				○
生態系			○				○
文化財			○				
レクリエーション	○			○	○		
景観				○			
水象							○
地球温暖化	○	○			○	○	

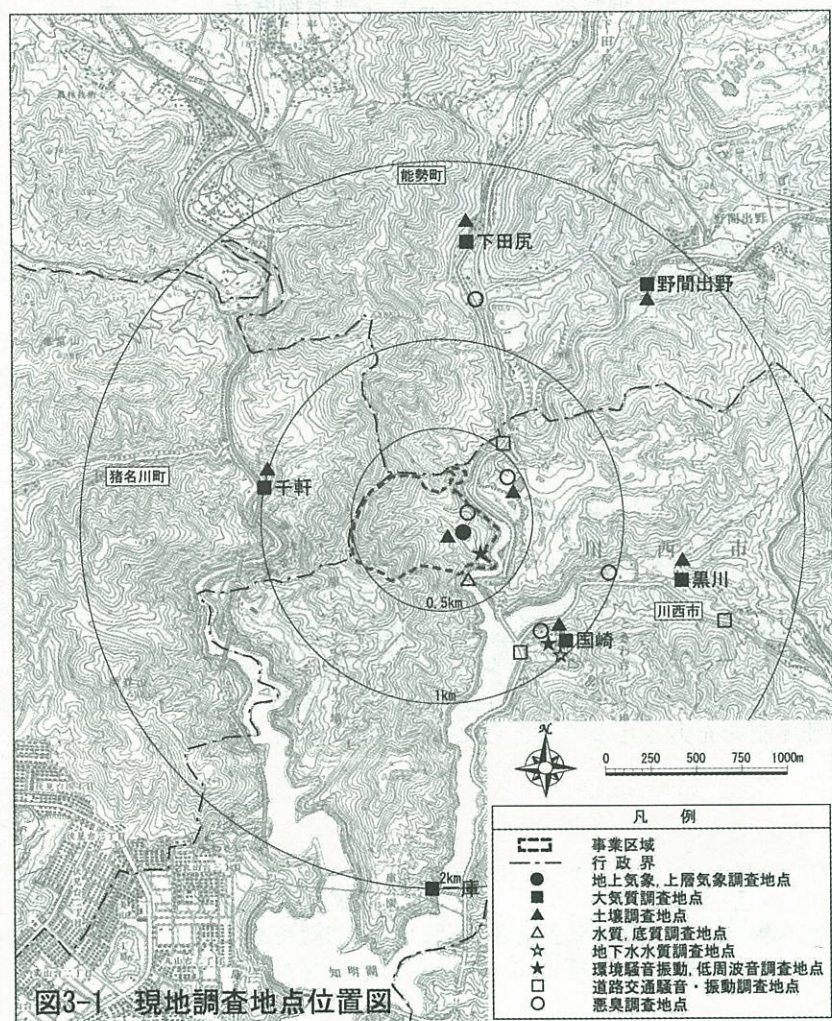


図3-1 現地調査地点位置図

表3-1 環境影響要因の抽出

環境影響要因	抽出理由	
工事時	工事関係車両の走行	車両の走行に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生
	施工機械の稼働	施工機械の稼働に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生
	土地の造成・施設等の建設	施設等の建設による土地の改変、造成に伴う粉じんの発生、濁水の流出、建設廃棄物の発生
存在時	建築物等の存在	建築物等の存在
供用時	廃棄物運搬車両の走行	車両の走行に伴う排出ガス、騒音及び振動の発生、廃棄物からの悪臭の発生
	施設の稼働	煙突から排出されるばい煙、施設から排出される排水、施設の稼働に伴う粉じん、騒音、振動、低周波音及び悪臭の発生、施設稼働に伴う廃棄物の発生、地下水の揚水
	土地利用の変化	土地利用の変化、河川流量の変化

4 大気汚染

4.1 現況調査の結果

4.1.1 気象

事業区域において1年間の地上気象調査、四季各7日間の上層気象調査を行いました。

地上気象の状況は、年平均気温は13.4℃、年平均風速は1.5 m/sで、最多風向は北の風となっています。

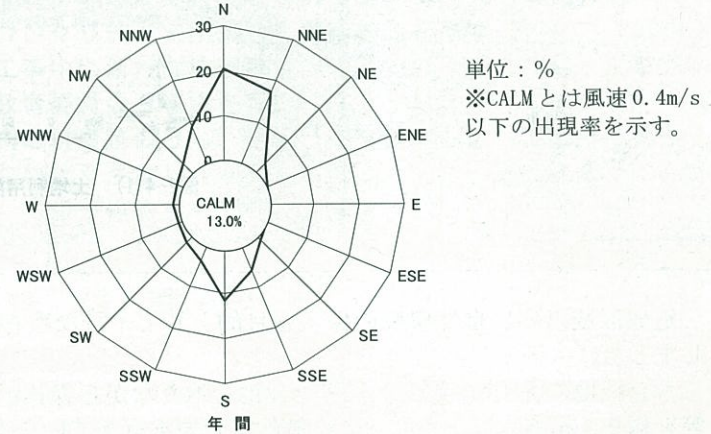


図4-1 風配図

また、四季の上層気象調査の結果、特に秋季及び冬季で強度の逆転層が確認されました。

逆転層の種類毎の出現頻度は、各季節とも発生なしが最も多くなっていますが、次いで春季、夏季及び秋季では全層逆転の割合が多く、冬季では下層逆転の割合が多くなっています。

表4-1 逆転層の種類毎出現頻度

		上層逆転	全層逆転	下層逆転	発生なし	合計
春季	度数	7	7	3	39	56
	%	12.5	12.5	5.4	69.6	100.0
夏季	度数	4	8	5	39	56
	%	7.1	14.3	8.9	69.6	100.0
秋季	度数	2	17	7	30	56
	%	3.6	30.4	12.5	53.6	100.0
冬季	度数	2	5	7	42	56
	%	3.6	8.9	12.5	75.0	100.0
合計	度数	15	37	22	150	224
	%	6.7	16.5	9.8	67.0	100.0

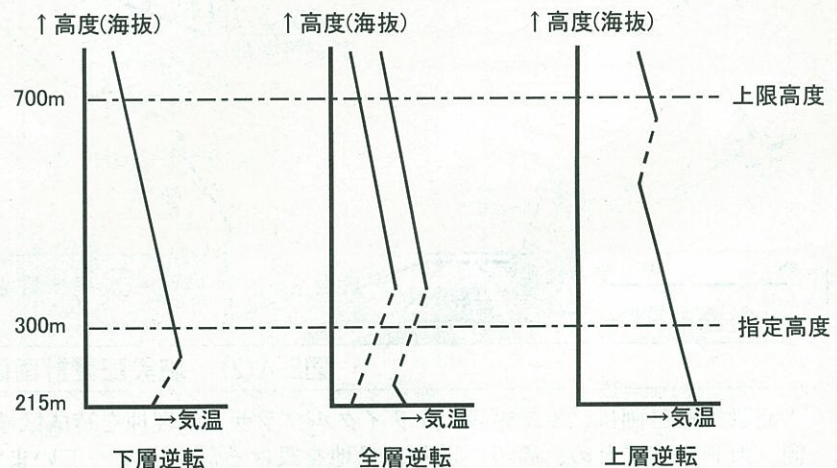


図4-2 逆転度の種類